

健康長寿を軸としたまちづくり

300年以上の歴史
見附今町・長岡中之島大風合戦
6月の第1土曜日から3日間

新潟県見附市長 久住時男

見附市の紹介 (H27.4.1現在)

市の沿革

昭和29年 市政施行 昭和31年 今町を編入以降、合併せずに「自律」のまちづくりへ



主要製造品

プラスチック製品、一般機械器具、金属製品、ニット製品、織物製品

主要農産物

米、レンコン、ブドウ、養豚、クリ、ユリ、大豆

1	人口	41,545人
2	世帯数	14,350世帯
3	高齢化率	29.1% (75歳以上は15.0%)
4	面積	77.91km ² (旧77.96km ² から修正)
5	財政力指数	0.507 (3カ年平均)
6	職員数	正規職員484人、臨時職員322人
7	一般会計H26	歳入15,734百万円、歳出14,867百万円

注目される施策

- ①スマートウエルネスシティ構想・・・歩いて暮せるまちづくり
- ②地域コミュニティ組織の再編・・・住民共助の仕組み
- ③防災・減災対策・・・遊水地、田んぼダム、防災メール
- ④見附18年教育と共創郷育・・・地域ぐるみの子育て
- ⑤道の駅、まちの駅・・・交流拠点、賑わい演出
- ⑥県営中部産業団地・・・優良企業の進出と雇用創出
- ⑦ごみの減量化施策・・・EM菌、YM菌の活用等
- ⑧健幸住宅の推進・・・CASBEE見附基準、ウエルネスタウン
- ⑨交流拠点を結ぶ公共交通網・・・コミュニティバス等

住みたい 行きたい 帰りたい
やさしい絆のまち みつけ

都市計画

市街化区域	830ha
調整区域	5,170ha
都計区域外	1,796ha
計	7,796ha



- 北陸自動車道中之島見附 I.C から 2km
- 上越新幹線長岡駅から 11km
- 東京から 260km
大阪から 540km
名古屋から 410km

産業構造 (H22国調)

区分	総数	第1次			第2次			第3次		
		就業人口	構成比	就業人口	構成比	就業人口	構成比	就業人口	構成比	
就業人口	20,469人	815人	4.0%	7,229人	35.3%	12,135人	59.3%			
構成比	100.0%									

交流の拠点



いきいき健康づくりの4本柱

食生活

食がいかに大切か

知っているまちプロジェクト (H15～)



- ・日本型食生活のすすめ
- ・地消地産
- ・給食に玄米入りごはん・七分つきごはんを導入

いきがい

ハッピーリタイアメント・プロジェクト (H16～)

市民グループ「悠々ライフ」が中高年の仲間づくり、生きがい探しを応援



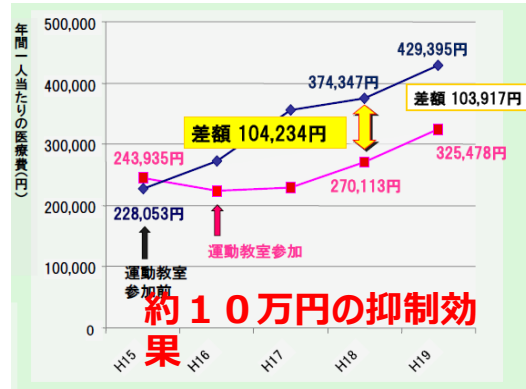
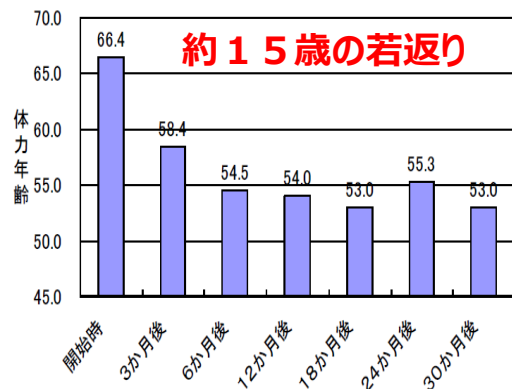
H22年度 活力協働まちづくり推進団体表彰の優秀賞を受賞

多彩なメニューで交流促進

315 事業開催。のべ 6,016人が参加(H26年度)

運動

健康運動教室 (H14～) H27.3月末現在1,413人参加中
体力年齢の若返りと医療費の抑制効果を実証



検診

健康の駅 (H20～)

各種測定や体験の他に、保健、医療、福祉、生活、経済、心に関する相談や情報提供を受けられる。

小児生活習慣病予防事業 (H11～)

新潟大学医学部小児科と連携

小学校4年生と中学校1年生を対象に実施。血圧、血中脂質、肥満度を検査。小児の血圧基準「見附スタディ」確立。

【小4年生時 (H21・22) と中1年生時 (H24・25) の変化】
n = 547

○異常無し 小学4年生336人⇒中学1年生367人 **異常なし31人増**

○異常あり 小学4年生211人⇒中学1年生180人

SWC首長研究会の趣旨

超高齢・人口減少社会によって生じる様々な社会課題を、自治体自ら克服するため「**健幸**」をまちづくりの基本に据えた政策で持続可能な新しい都市モデルを目指す。

(H21年発足、H28年1月現在 会員32都道府県60自治体 会長：久住見附市長)

～住んでいるだけで**健康**で**幸せ**を感じられるまちへ～

基本となる考え方

- ◆歩いて暮すまちづくり（コンパクトなまち、必須の公共交通）
- ◆社会参加の仕組み（いきがい、地域貢献）
- ◆住み続けられるまち（地域包括ケア体制、住み替え支援）
- ◆行動変容の誘導・支援（健康行動、生活習慣の改善）
- ◆ソーシャルキャピタルの醸成（地域コミュニティ、交流促進）

明らかになった事実

①健康行動の無関心層（運動未実施）が65%を占めていた

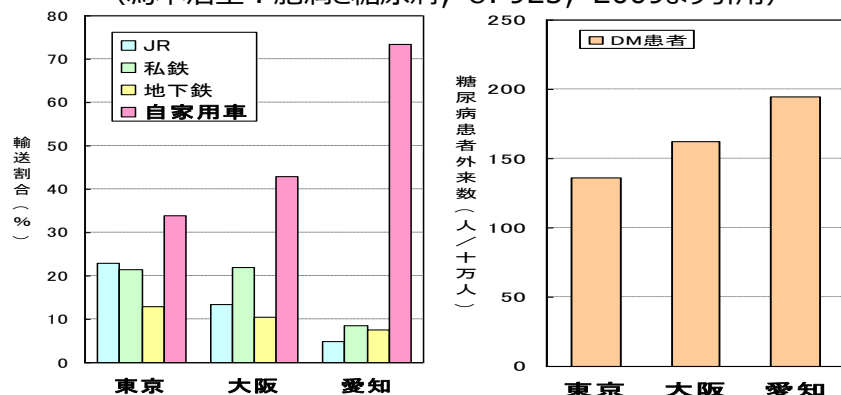
運動習慣の定着した市民は35%のみ

「健康アルゴリズムによる研究」から

②生活習慣病の発症には、地域の環境因子も一定の影響がある

東京・大阪・愛知における自家用車の利用と糖尿病患者数

（為本浩至：肥満と糖尿病，8：923，2009より引用）



自家用車への依存度と
糖尿病の患者数が連動

※生活習慣病予防のため、厚生労働省の推奨する1日の歩数は8千歩～1万歩

③歩く効果は足し算可能だった

まとめて歩いても、分割して歩いても、
歩くことによる効果は同じと判明



健康長寿・SWCの理念でまちづくりを転換

普段の生活で自然と必要な運動量が満たされる『歩いて暮すまち』へ

SWCまちづくりのポイント

人口が減少しても持続できるまちへ

居住誘導ゾーン、生活機能誘導ゾーン、コンパクトビレッジの形成

① 社会参加(外出)できる場づくり

交流拠点の整備



年間50万人が利用
市民交流センター



年間11万人が利用
コミュニティバス



健幸遊具



健幸ベンチ

② 公共交通網の整備

市街地、交流拠点と地域をつなぐ

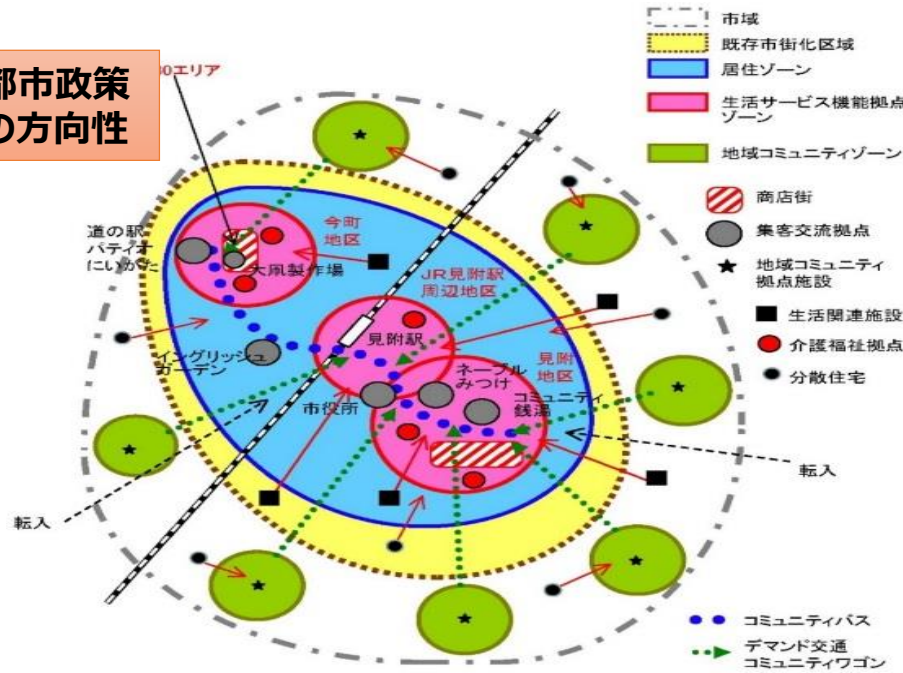
③ 歩きたくなる快適な歩行空間の整備

景観整備、歩車共存道路

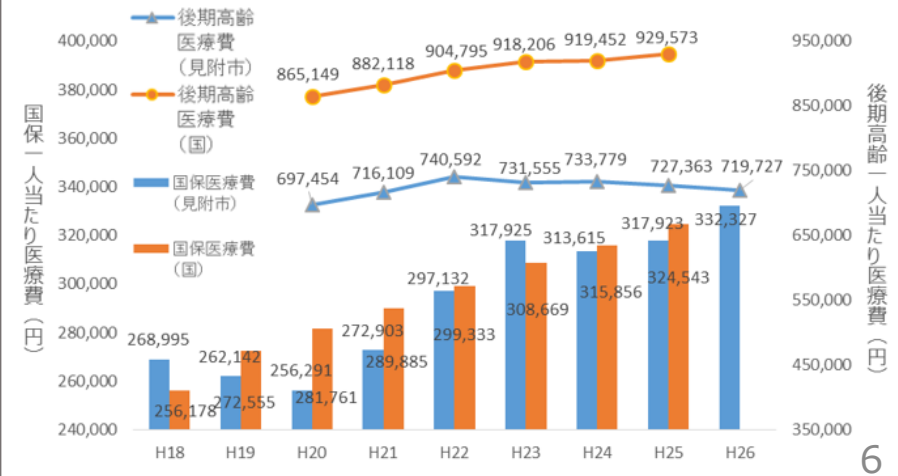
施策担保の条例制定

健幸基本条例、歩こう条例、
市道の構造の技術的基準を定める条例

都市政策
の方向性



成果：医療費1人当りの推移



みつけニットの新たな展望と地方創生

現在の取り組み

- 6社による共同ブランド
「MITSUKE KNIT」立上げ
デザイナー＋見附産地のダブルネーム
- 産業観光としてニット工場を使う
アウトレットファクトリーへの誘客
- パリのショーに共同出展
品質評価を実感
- 技術の継承と従事者の確保
『ニット塾』



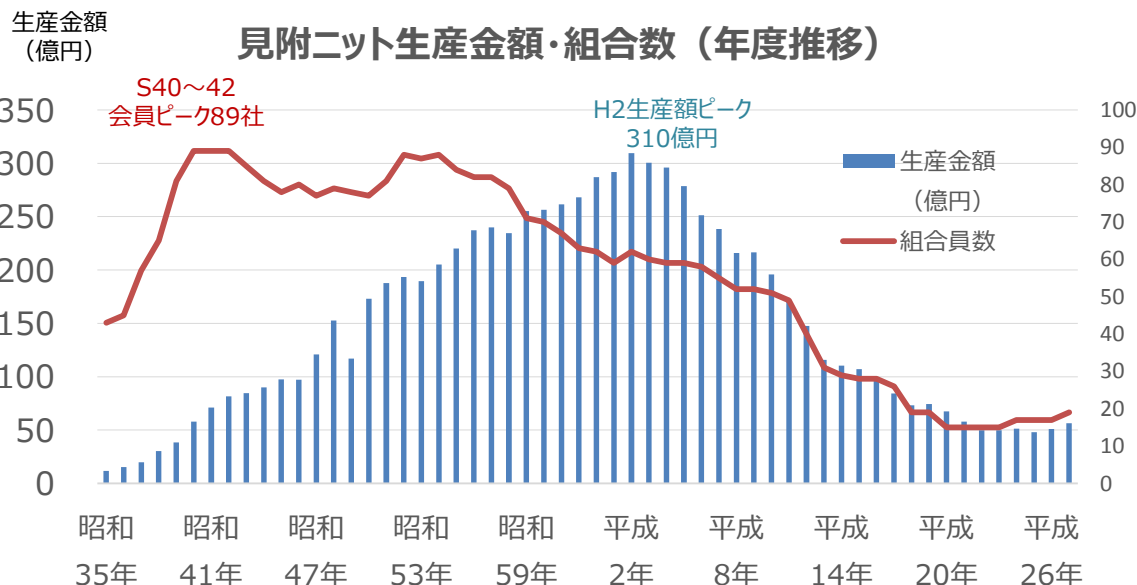
地域の誇りとなる産業
= 産地

これからの展望

- ニットの6次産業化
- 地域産業のステータスとしての再生
- 若者が就業したくなる魅力ある産業へ
- 消費者意識の改革推進

国の支援に期待

国内外に日本製ニットの素晴らしさをアピール
アピール⇒消費者への啓発⇒市場創造



ニット生産金額と組合員数

◎ 生産金額

平成2年 最多 310億円
平成27年 現在 56億円

平成24年以降上昇傾向へ

◎ ニット組合員数

昭和40～42年 最多 89社
平成20～23年 最少 15社
平成27年 現在 19社

最少期から4社増加

企業進出が進む見附テクノ・ガーデンシティ

企業投資の経済波及と地域雇用の促進、若者の定住へ

①平成27年度・新規進出企業6社

②今後計画されている新規企業の投資見込み額 約141億円

③既進出企業の平成28年度中の設備投資予定額 約20億円

■進出企業 55社
■うち操業開始企業 46社
■進出率 98.4% (平成28年3月1日現在)

